

# 第1章 調査の概要

## 第1節 調査経緯と目的

佐渡市は新潟県の北西約35kmに位置し、日本海側で最大の離島である。平成16年(2004)に両津市、相川町、佐和田町、金井町、新穂村、畑野町、真野町、<sup>おぎまち</sup>小木町、羽茂町、赤泊村の10市町村が合併し、佐渡市となった。

小木町は佐渡島の最南端に位置し、江戸時代に金銀の積出港として当時佐渡第一の港として栄えた港町である。入り江に沿って湾曲する陸繋砂州上の土地に町場が形成されており、街路に面した間口2～4間ほどの短冊状敷地に町家が建ち並ぶ。歴史的な町家だけでなく、なかには洋風意匠や土蔵造の建物も残存する。これらに着目した新潟大学都市計画研究室は、平成19年(2007)に小木町の町家を対象として調査をおこない、小木町は新潟県内でも歴史的建造物の残存率が非常に高いということが確認された。これを受け、住民の町並保存や活用に対する関心が高まり、翌平成20年(2008)には来訪者に楽しく町を歩いてもらうことを目的に「風待ちの会」が、平成23年(2011)には歴史を生かしたまちづくりをおこなうことを目的に「小木湊まちなみの輪」が発足した。さらに平成30年(2018)には小木町商工会内に「おぎ町並み保存推進委員会」が発足した。

これに加え、佐渡市には令和4年(2022)現在、指定、選定、登録など412件の文化財があり、小木地区には54件の指定等の文化財がある。そのなかには平成3年(1991)に重要伝統的建造物群保存地区に選定された宿根木地区もある。これら文化財の活用も通じて、地域の活性化に繋げる必要がある。

こうした背景のなかで、住民の町並保存に対する熱い想いを受け、佐渡市として令和3～4年度の2ヶ年にわたり、町並の保存対策調査を実施することとした。本調査は佐渡市が文化庁の補助を受け、小木町を対象として実施する伝統的建造物群保存対策調査であり、小木町の伝統的な建造物の特性を把握し、現状での当該地区の歴史的価値をあきらかにするとともに、歴史ある貴重な町並の保存継承および今後の活用やまちづくりに資する基礎資料の作成を目的とする。

(藤井隆博)

## 第2節 調査体制と調査手法

**調査体制** 本事業は、調査および成果報告書作成を内容とする調査研究事業として、佐渡市観光振興部世界遺産推進課文化財室が、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所（以下、奈文研）に委託して実施したものである。調査体制を以下に示す。

### 事務局（佐渡市世界遺産推進課）

下谷 徹（世界遺産推進課長、令和3年度）

正治 敏（同上、令和4年度）

岩崎 成正（同課文化財室長、令和3年度）

藤井 隆博（同上、令和4年度）

坂下 和樹（同課同室文化財保護係長、令和3年度）

坂下 肇（同上、令和4年度）

中川 磨（同課同室同係主任）

市橋 弥生（同課同室同係主任学芸員）

井藤 博明（同課世界遺産保存係主任）

川崎 香織（同課世界遺産保存係文化財保護技師）

※令和4年度の組織改編により部制となり、現在は佐渡市観光振興部世界遺産推進課である。

### 現地調査協力

本間 悟（佐渡市役所小木行政サービスセンター長）

桃井 秀男（同センター次長）

大久保 省三（同センター地域支援係長）

木村 富美雄（小木町商工会会長）

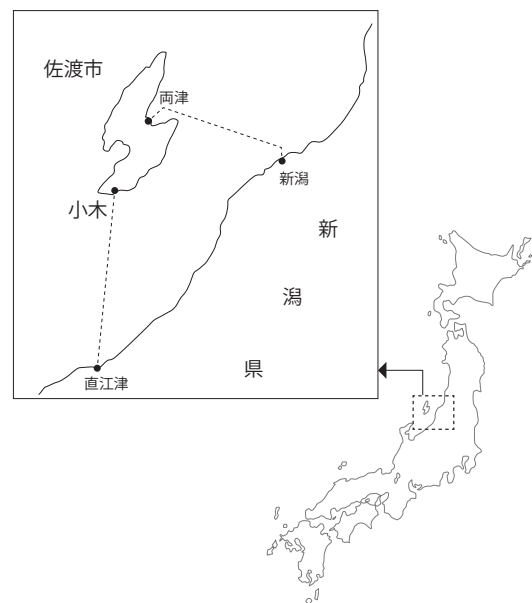


図1-1 佐渡市小木町の位置図

佐藤 政明（同会事務局長、令和3年8月まで）  
 越前 範行（同上、令和3年9月から）  
 岡崎 拓夫（おぎ町並み保存推進委員会委員長）  
 中野 奈美子（同委員会副委員長）  
 渡邊 泰（同委員会顧問、塩尻市重伝建専門員）  
 奥野 航（佐渡市地域おこし協力隊）

**調査員（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・文化財防災センター）**

大林 潤（文化遺産部建造物研究室長）  
 島田 敏男（同部同室特任研究員）  
 前川 歩（文化財防災センター主任研究員、現・畿央大学健康科学部人間環境デザイン学科講師）  
 福嶋 啓人（都城発掘調査部遺構研究室研究員）  
 目黒 新悟（同上）  
 山崎 有生（同上）  
 高野 麗（同上）  
 鎌倉 綾（企画調整部写真室技術補佐員）

**高精細写真撮影（西大寺フォト）**

杉本 和樹

**調査助言（文化庁）**

大石 崇史（文化財第二課伝統的建造物群部門文化財調査官）

**調査範囲** 調査区域は旧市町村行政区における「小木町大字小木町」を対象とし、小木町の入り江に面して展開する町場部分および山手の谷筋と寺社地を範囲とするが、戦後の埋立地であることがあきらかな現在の海岸周辺区域は対象外とした（図1-2）。

なお、当該範囲は小木町の20町の旧行政区に区分され、各町名および町境は図のとおりとし、町境は平成28年（2016）刊行の『佐渡市住宅明細図』を参照した。また本報告書で用いる主要な街路の名称と位置も図のとおりとし、合併以前の旧市町村名である「小木町」を小木地区、その中の調査区域である当該地を「小木町」と統一して表記する。

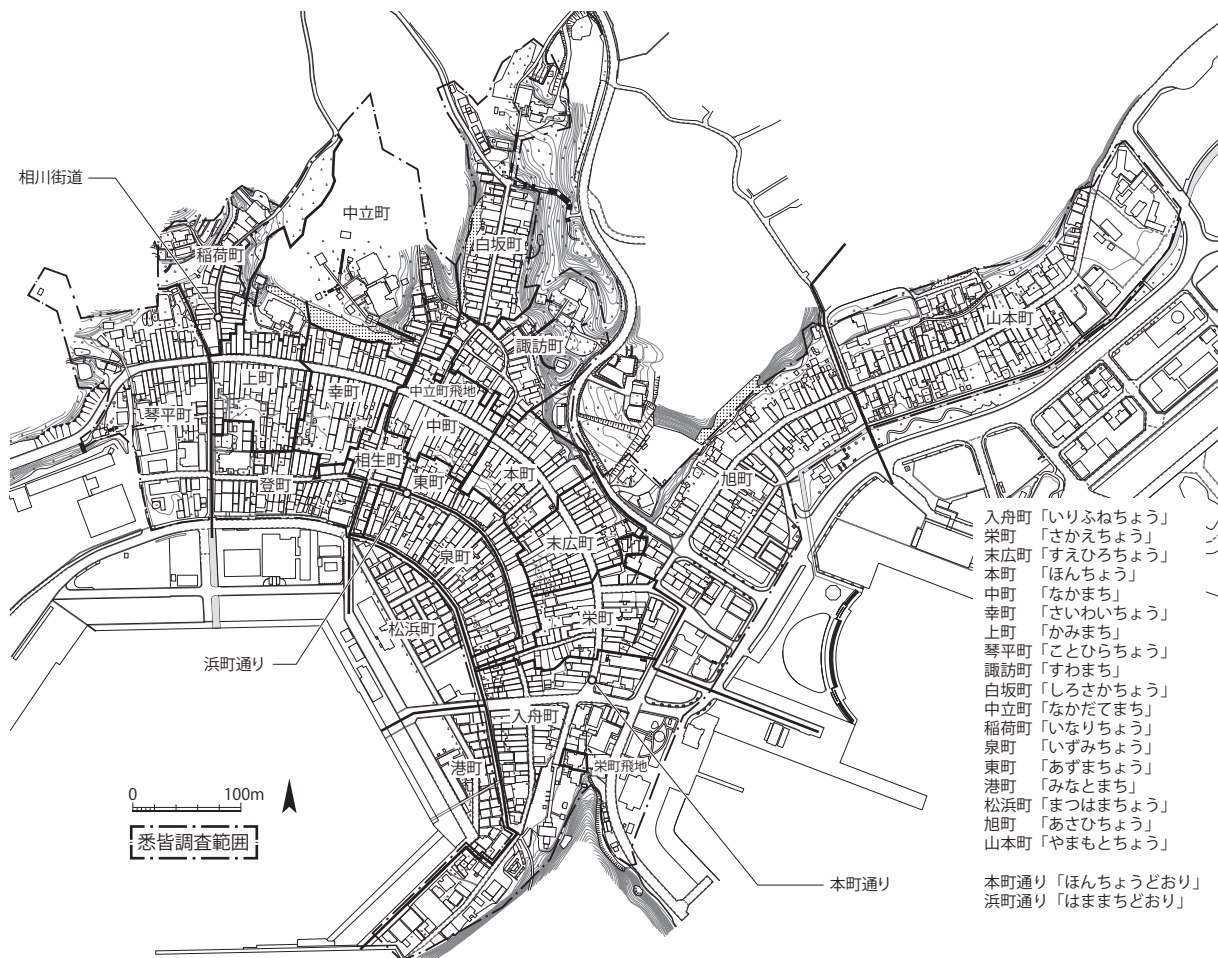


図1-2 調査範囲と旧行政区20町

**敷地番号および建物番号の付与** 各敷地内にある建物については、各棟毎に地図上に記入して配置図を作成し、建物番号を付した。敷地番号は旧行政区の町名を先頭に記し、敷地番号および建物番号は2桁の通し番号とした。したがって、例を示すと、中町の敷地番号01内に位置する建物番号02の建物は、「中町01-02」という番号で示される。調査後、調査一覧表および地図上に建物を落とし込み、写真データは現地調査時に付与した番号毎に整理した。

**悉皆調査** 悉皆調査では、調査前に建物の有無やその位置を事前に確認し、敷地番号や建物番号を付与するための地図を作成した。佐渡市所有の現在の管内図を下図とし、平成28年(2016)刊行の『佐渡市住宅明細図』をもとに敷地割を地図に落とし込み、各敷地毎に番号を付与した。

現地での調査では、各棟の調査の作成、外観写真の撮影、位置の記録をおこなった。調査はあらかじめ用意した調査用紙に調査事項を記入した。民家と社寺建築では調査書は別様式を用いた(図1-3、1-4)。

佐渡市小規模伝統的建造物群保存地区調査書 一次調査書										
No.	建物番号	名称	用途	種別	構造	築年	調査者	調査内容		備考
								調査項目	調査結果	
1	01-01	民家	住居	木造	瓦葺	1950	調査者	調査項目	調査結果	
2	01-02	民家	住居	木造	瓦葺	1950	調査者	調査項目	調査結果	
3	01-03	民家	住居	木造	瓦葺	1950	調査者	調査項目	調査結果	
4	01-04	民家	住居	木造	瓦葺	1950	調査者	調査項目	調査結果	
5	01-05	民家	住居	木造	瓦葺	1950	調査者	調査項目	調査結果	
6	01-06	民家	住居	木造	瓦葺	1950	調査者	調査項目	調査結果	
7	01-07	民家	住居	木造	瓦葺	1950	調査者	調査項目	調査結果	
8	01-08	民家	住居	木造	瓦葺	1950	調査者	調査項目	調査結果	
9	01-09	民家	住居	木造	瓦葺	1950	調査者	調査項目	調査結果	
10	01-10	民家	住居	木造	瓦葺	1950	調査者	調査項目	調査結果	

図1-3 悉皆調査調査票(民家)

佐渡市小規模伝統的建造物群保存地区調査書 二次調査書								
No.	建物番号	名称	用途	種別	築年	調査者	調査内容	
							調査項目	調査結果
1	01-01	民家	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果
2	01-02	民家	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果
3	01-03	民家	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果
4	01-04	民家	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果
5	01-05	民家	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果
6	01-06	民家	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果
7	01-07	民家	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果
8	01-08	民家	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果
9	01-09	民家	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果
10	01-10	民家	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果

図1-4 悉皆調査調査票(社寺)

民家を対象とした調査書の調査項目は、町名、整理番号(物件番号)、地番、建物名称、用途、構造形式、階数、屋根形状、屋根葺き材、平入・妻入、建築年代、2次調査の要否とし、町家形式の建物を対象とした記載項目として、間口、2階軒高、1階前面の形式、2階前面の特徴の項目を設けた。社寺を対象とした調査書の調査項目は、町名、整理番号(物件番号)、社寺名、宗派、建物名称、建立年代、構造形式、特徴、資料、指定・登録・既調査の有無、2次調査の要否とした。

調査は外観の目視観察を基本とし、建築年代は江戸時代、明治時代(大火前)、明治時代末期~大正時代(大火後)、昭和前期(昭和30年代まで)、昭和後期(昭和40年代)以降の5つの時代区分を設けて判定した。その他、市町村誌等の文献資料や既存の調査報告書等で、すでに建築年代があきらかなものはこれを参考とした。

**個別建造物調査** 悉皆調査に続いて、詳細調査を要すると判断した伝統的民家について、2次調査と

佐渡市小規模伝統的建造物群保存地区調査書 二次調査書(民家)										
No.	建物番号	名称	用途	種別	築年	調査者	調査内容			備考
							調査項目	調査結果	調査者	
1	01-01	民家	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果	調査者	
2	01-02	民家	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果	調査者	
3	01-03	民家	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果	調査者	
4	01-04	民家	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果	調査者	
5	01-05	民家	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果	調査者	
6	01-06	民家	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果	調査者	
7	01-07	民家	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果	調査者	
8	01-08	民家	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果	調査者	
9	01-09	民家	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果	調査者	
10	01-10	民家	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果	調査者	

図1-5 2次調査調査票(民家)

佐渡市小規模伝統的建造物群保存地区調査書 二次調査書(社寺)										
No.	建物番号	名称	用途	種別	築年	調査者	調査内容			備考
							調査項目	調査結果	調査者	
1	01-01	社寺	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果	調査者	
2	01-02	社寺	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果	調査者	
3	01-03	社寺	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果	調査者	
4	01-04	社寺	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果	調査者	
5	01-05	社寺	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果	調査者	
6	01-06	社寺	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果	調査者	
7	01-07	社寺	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果	調査者	
8	01-08	社寺	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果	調査者	
9	01-09	社寺	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果	調査者	
10	01-10	社寺	住居	木造	瓦葺	調査者	調査項目	調査結果	調査者	

図1-6 2次調査調査票(社寺)

して個別に調査を実施した。本事業では伝統的民家26件、社寺6件の調査をおこなった（第4章参照）。調査内容は配置図および平面図、矩計図の実測、写真撮影、調書の作成をおこない、適宜必要と判断したものは断面図の実測もおこなった。また、建物の改造履歴等の把握を目的として、居住者や所有者へ聞き取り調査も実施した。聞き取り対象者が不在であった物件は、佐渡市や保存会を通じて、事前もしくは事後に聞き取り調査を実施した。なお、調書作成に用いた調査票は図1-5、1-6である。

**地割痕跡調査** 諸資料によりあきらかな江戸時代および明治初期の地割の痕跡や後述する享和2年（1802）の小木地震の影響による町場の変遷過程を現地で確認し、適宜写真を撮影した。

**工作物調査** 悉皆調査では門および塀も調査対象としたが、それらとは別に工作物調査として、石積や石垣、石造物等について、現在地および仕様を確認し、写真記録をおこなった。

**道路幅員調査** 地割の現況や主要街路沿いの拡幅にともなう軒切の有無を確認するため、現況の溝間の幅員を実測した。

**史料調査** 小木町の大火前後の町家の実態を知り得る建築届出書や屋号に関する文書等、佐渡国小木民俗博物館に所蔵される関連文書のデジタル化をおこなった。特に建築届出書に関しては、個別建造物調査の際に建築年代の根拠としても利用した。

### 第3節 調査経過

現地調査は以下の日程および参加者でおこなった。現地調査にあたっては佐渡市職員および小木町



図1-7 個別建造物の調査風景

商工会、おぎ町並み保存推進委員会のメンバーが適宜随行した。

- ・令和3年5月18～21日 悉皆調査 大林・福嶋・目黒
- ・令和3年9月28日～10月1日 個別建造物調査①および中間報告会（9/28開催） 前川・島田・福嶋
- ・令和3年11月16～19日 個別建造物調査② 福嶋・目黒
- ・令和4年4月19～22日 個別建造物調査③および中間報告会（4/20開催） 島田・福嶋・目黒
- ・令和4年5月29日～6月3日 個別建造物調査④および地割痕跡調査、高精細写真撮影 島田・福嶋・鎌倉・杉本
- ・令和4年8月2～5日 個別建造物調査⑤および工作物調査 大林・福嶋・山崎
- ・令和4年8月26～28日 祭礼調査 福嶋
- ・令和4年9月27～30日 類例調査・立面写真撮影 福嶋・山崎
- ・令和5年3月20～22日 調査成果報告会（3/21開催） 大林・福嶋・高野

### 第4節 報告書の作成

報告書執筆は、佐渡市職員と奈文研職員が担当した。各執筆担当は以下のとおりとし、各文末の括弧内に文責を示した。

第1章第1節 藤井

第2章第1節 市橋

第2節 井藤・中川

第4章 大林・島田・前川・福嶋・目黒・山崎

第5章第4・5節 山崎

第7章 佐渡市・福嶋

上記以外 福嶋

編集は大林の指導のもと、福嶋が担当した。作図、資料整理、編集作業については島田、西尾尚子、川口左知子の協力を得た。巻末図版の高精細写真は杉本が撮影し、本文挿図内の各写真は事務局および調査員が適宜撮影したものである。（福嶋啓人）



図1-8 中間報告会の実施（2022年4月20日）